

環境保全のボランティア体験講座 2024 第7回講座レポート

第7回目の講座は 11 月 17 日(日)富田林市の滝谷不動明王寺付近にある、奥の谷で開催しました。

この日の受講生は 9 名。

集合場所である近鉄「滝谷不動」駅前から 20 分程歩いて、活動地に向かいます。



南北に細長い谷の奥、「奥の谷」に近づくとつれ、里山風景が広がってきました。受講生はワクワクのご様子♪



のどかな風景が続きますが、下の写真のうっすら白い模様は、炭からあがっている煙のようです。



活動地のテント下に到着しました。

この日は「大阪府立園芸高等学校」さんも同席とのことで、一緒に富田林奥の谷の環境保全活動を学びます。



まずは TV 画面を利用して里山保全と生物多様性について学ぶ予定でしたが、パソコンと画面の接続のトラブルがあり、先に「竹」の概要を学びました。

ご講演頂いたのは右の写真の「竹炭班」の柴山さんです。

この活動地では「ミツバチ班」や「カレーライス班」など、複数の班に分かれてそれぞれ違った活動をしています。

お話では、竹の種類や植生、利用、そして放置竹林、サステナブルな利用のされ方の紹介がありました。



さて、画面調整がうまくいったところで、以前代表を務めておられて現在は富田林の自然を守る会相談役の田淵さんのご講演です。普段は 2 時間かけてお話頂いている内容を、この地での保全活動を中心に 30 分でご解説頂きました。



早速午前中は竹の伐採を始めます。
山の斜面の中でも活動できるよう、所謂アイゼンを靴や長靴に装着しました。
勿論ヘルメットや手の怪我を予防する、皮の手袋は欠かせません。



装備装着完了！
一輪車で荷物を運びます。
嬉しそうな表情をされています
(写真左)。

下の写真は、竹林に到着の様子で、ここでの伐採担当、楠本さんのお話をお聞きしている様子です。
ここからは 2 班に分かれて活動します。
もう1つの班はチップパー(粉碎機)での伐採竹の破碎を作業します。
そして途中で作業を入れ替え交代します。



どの竹を切るか、慎重に見極めていきます。
成長具合、隣の竹との距離、曲がり具合、倒れる方角、などを総合的に判断して決めます。



処理する竹が決まり、切断しました。
しかし横に倒れず、近くの地面に突き刺さる事態に。



ロープを使って引きずり倒すことにして、その後は長いので短く切断することになりました。
下の写真はその時の様子です。



こちらでも伐倒、そして4~5m程度に短く解体する作業が進んでいます。



左や下の写真は、次々に切り倒していく様子です。



右の写真のように土に埋まる竹も掘り出し、チップパーにかけ破碎します。元々堅い繊維質の竹ですが、ここまで朽ちるには相当の年月が経っていると考えられます。今回の講座を機に、人海戦術で処理していきます。



右や下の写真は、朽ちた竹を一輪車に乗せ、チップパー傍まで運んでいく様子です。その後も同様の作業は進みます。



ここからはチッパー班の作業を紹介します。

「竹を食べる怪獣」の名がふさわしいようなこの機械は、初めての人はかなり音に驚くくらいのレベルの騒音を出しながら、リズム感ある動きで竹を破碎していきます。



ここでは先程の一輪車に乗っていたヘルメットの登場です。耳当てやシールドがついており、防音効果と破碎により顔面に飛んでくる繊維からの防護効果があります。



まずは安全確認などしてから、作業に移りました。

巻き込まれて大怪我どころでは済まないの、入念に説明がありました。



大きな長い竹や木も、次々に飲み込んでいきます。斜め上から差し込むのがポイントで、あまり近づきすぎないよう、指導がありました。



下の写真のように、意外に短い方が差し込むのが難しいんです。その場合、台の上に置いた状態にして、長い竹で押し入れると絡まって中に入ります。



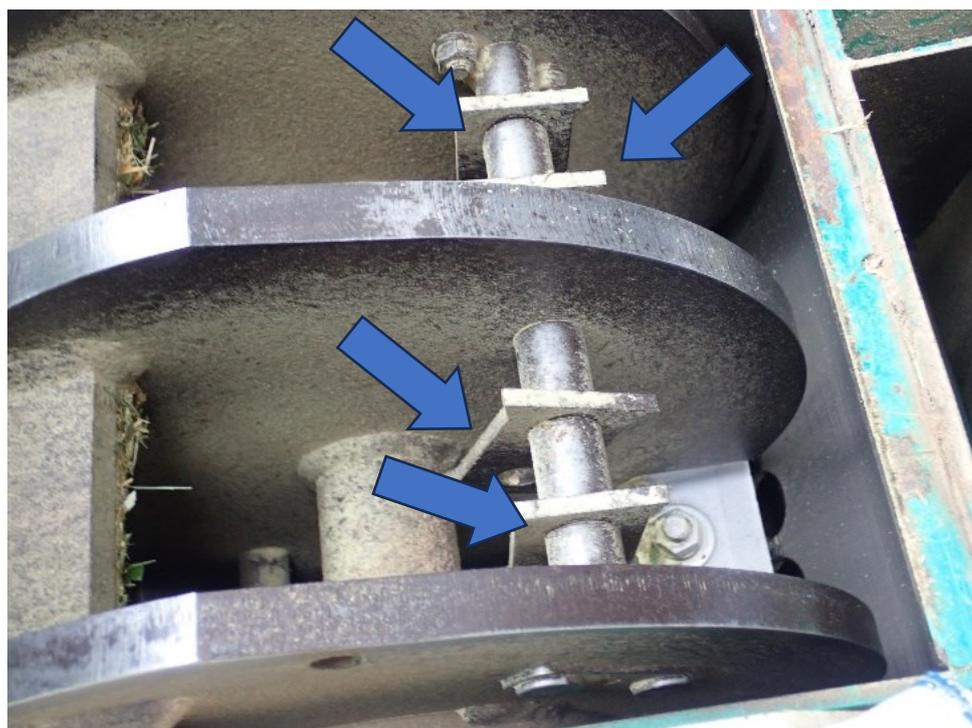
チップーから吐き出される竹のチップ。粉碎する前に山積みになっている竹と比較すると体積は全く違うものとなっていました。臭いを嗅いでみると、青汁のようなツンとしたえぐみのある臭いがします。これが後に発酵して、竹の腐葉土となるのです。

ここでチップパーにトラブル発生！ 反転はするものの、正転せず破碎しなくなっていました。機械を開けて中を確認します。



滅多に見られないので中の撮影をしました。下の写真の矢印のところが歯となっていて、回転した時に粉々に切断されるようです。山仕事ではこういった機械的なトラブルもあるので対応しなければならないと、受講生は学ぶことができました。

結局、時間を置くと動くようになりました。過去にないくらい長時間の稼働でモーターが熱くなっていたのでその影響が考えられますが、はっきりとした理由は分かりませんでした。この後、高校生のほうがこのチップパーを使うので心配していましたが、動くようになって一安心でした。



下の写真は真竹と孟宗竹の見分け方について学んでいるところで、「真竹は節が2つ」「孟宗竹は節が1つ」と教わりました。
指で触らないと分からない模様で、受講生はそれぞれの違いを肌で感じ取っていました。
そして2~3人で1本の竹を、それぞれ竹の炭焼き窯の近くまで運んでいきました。





炭焼き窯です。
この活動地では竹を炭にするのに使われています。
たまにアリジゴク(ウスバカゲロウの幼虫)が見られる場所です。



人が集まりきる前に道路脇で赤く色づいた植物を見つけたようです。
ハゼノキです。
ウルシ科の植物で、ウルシほどではないですが、かぶれる原因となるようです。

さて、集まってからは、まず竹炭についてどうやって作るか、パネルを使っの説明がありました。教えて頂けるのは、左下写真の米田さん(左)と端さん(右)です。



実際に作業に入りますが、まずは先程運んできた長い竹を 80 cm に切断します。
下の右の写真は、その長さの基準となるモノサシを使って、のこぎりで印をつけている様子です。



その後、竹割り専用の工具を使って皆で協力しながら割っていきました。



作業を補助したり、入れ替わったり、協力しながら時間いっぱいまで作業を進めていきました。



後半にもなってくると、左の写真のように誰の補助もなくても作業できるまでになりました。



こちらは炭の持ち比べをしている様子です。焼いてからは大きさや重さが全く異なります。

以下は割れてしまって小さくなったようなB品の炭。



先程 80 cmの長さに切った竹を綺麗に入れ込んでいきます。4つ切りにしたあと節をナタで切り落としていたのは、この時に充填率を上げる為だったのです。



この炭は、左の画像のように1箱入りで購入することができます。
金額は任意だそうです、一連の流れがうまくできた里山管理の仕組みだと、受講生の中には感動する人も居ました。

さて、次のアクティビティでは、竹を使った工作です。
担当は下の写真の奥村さんです。



まずは工作するにあたり自分の竹をキープ！ということで、長い竹から自分専用の一節分を切り出し、次の人にバトンタッチしてはまた切るを繰り返しました。
竹固定用の「馬」として利用しているのは小学校で使われているような椅子です。



切っている竹の下にある木材は、固定用の加工木材です。様々な形のものがあり、机に固定して作業しやすい形になっていました。

受講生は、竹を長いまま使ったり、少し短く更に切ったり、思い思いの形状に仕上げていきました。



ドリルで穴あけのシーンでは、楠本さんに作業いただきました。





左の写真はバーナーであぶっている様子です。竹の表面にある脂が浮いてきて、それを布で拭きあげると光沢のある表面に仕上がります。

下の写真はいつも最後に行っているアンケート記入と発表の様子です。毎回講座の最後には、数名に発表して貰っています。



最後はお世話になった活動地の方々も入って貰って、自身で作った竹細工を手に、全員で記念撮影を行い、いい思い出になりました。



さて、アンケートでは、以下のような回答がたくさん寄せられました。

・竹の種類の見分け方など、知らなかったのもとても興味深かった。竹を伐採する機会など普段ないので、貴重な体験ができて良かった。竹の成長スピードが想像以上に早くて驚いた。放っとくとあっというまにまた広がってしまうので、管理がすごく大変だと実感した。この場所でとれた竹を無駄にせず、畑の肥料として利用されているところが良いと思った。

・環境を保全することへの大切さが良く分かった。無償ボランティアで活動や文化の継承をしてくださっている事は国策として腑に落ちない。これからはシニアの方も働き続けていけない時代、保全活動も仕事や副業として賃金が発生する仕組みを作るように変わってほしいと思った。

・里山について大学の講義で大まかな広義は教えてもらっていたが、狭義やまた具体的についてはしっかり把握しておらず、理解した気でいた部分も多かった。しかし、今回田淵さんや柴山さんの講演を聞いて、里山の具体的な有様が分かったように思えた。それにより環境保全のビジョンがより固まってきたように思う(自分の中で)。

・今回の講座では第4回の林業体験に似たようなものであったが、4回とはまた違った竹林での体験ができたので良かった。この体験講座では学習以外に様々な体験ができる。例えば前回の川での保全活動など体を動かした体験などがあるので良い経験になったと感じる。

更に、「ここのボランティア団体の活動は面白そうなので参加したいと思う。」といった、具体的な参加意欲まで記入された方がおり、今後ここの活動地の構成メンバーに期待をしましょう。以上のように、竹林の利用・管理の川上から川下までを、実体験も含め学べた講座となりました。ご協力いただきました多くの皆さま、ありがとうございました。